

令和7年度 第3回 学校運営協議会 実施報告

1. 学校自己評価の報告と課題

学校より、今年度の学校評価結果を報告しました。

○安全・安心

- ・人権意識の向上や避難訓練に取り組んできた。
- ・避難経路の複数化など環境面の改善が課題。

○専門性

- ・ラーニングマップを活用した授業実践を積み重ねた。
- ・今後は、生徒一人ひとりの実態を丁寧に行い、根拠のある指導をする。
- ・授業での ICT 活用は定着してきた。
- ・教職員の業務における ICT 活用も推進し、校務効率化につなげる。

○連携

- ・保護者に 100%理解してもらうことは難しいが、指導の根拠は丁寧に説明する。

○チーム学校

- ・1人が抱える業務量が多いが、放課後の運用を工夫したり、個々に見通しをもったりして、働き方を改善する。

○保護者アンケートより

- ・生活指導や保健指導がより生活に生きるよう、保護者に情報発信後も、繰り返し授業で扱ったり声を掛けたりする。

○生徒アンケートより

- ・多くの生徒が学校生活を楽しく意欲的に過ごしている。
- ・学習内容や交流活動を充実させる。
- ・自己評価の低さや緊張に対しては、個別に見守る。

2. 来年度の学校経営計画について

学校より令和8年度の学校経営計画の説明をし、委員の方から助言をいただきました。

○安全・安心

- ・引き続き松高と合同の防災訓練は行う。
- ・防災訓練や研修はお互いの目的を明確に取り組む。
- ・地域の農産物や加工品を学習活動に取り入れていけるとよい。

○専門性

- ・教員の授業力の向上を目指す。
- ・実態把握を行い、根拠のある指導をする。

○連携

- ・ふれあい学校見学会を年3回に増やしたい。
- ・地域の学習では、外に出るだけでなく、外から来ていただく機会も設定したい。

○チーム学校

- ・放課後の運用に余裕をもち、授業づくりに力を入れられるようにしたい。

3. 協議「伊豆松崎分校の教育活動の充実に向けて」

○「地域に教えてもらう」作業学習

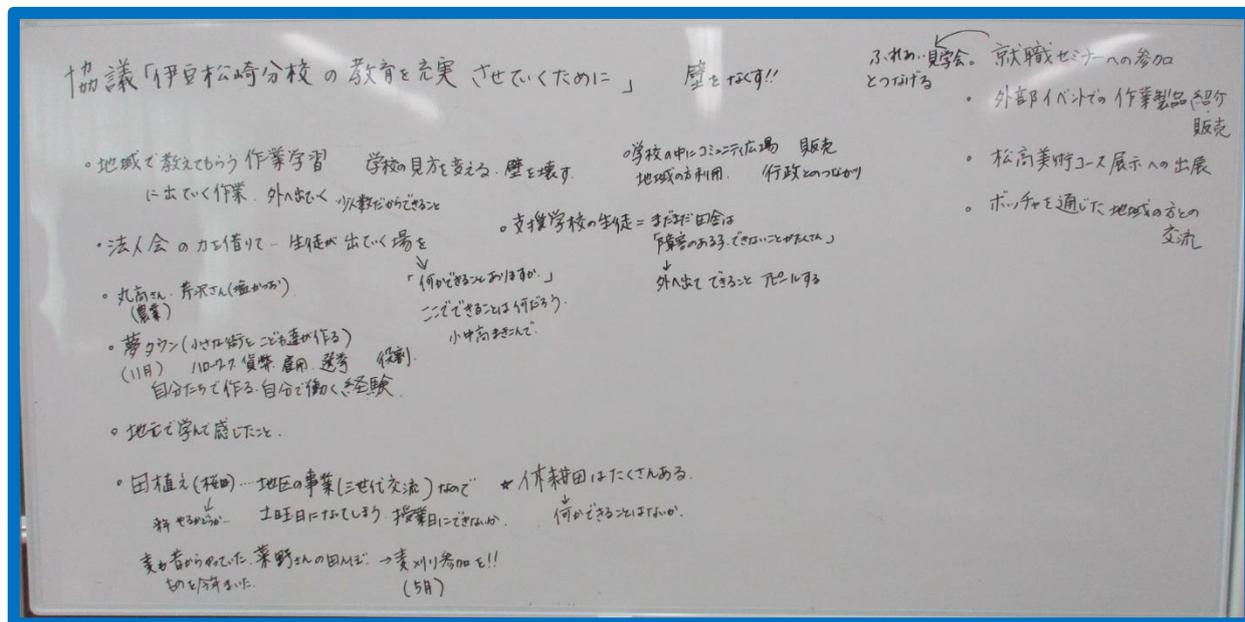
校長より、校内での製品作りに留まらず、「地域に出て、地域の場所で、地域の方に教わりながら働く」スタイルへの転換が提案されました。近隣企業での梱包や清掃、地域行事への参画など、生徒が社会の一員として動く姿を増やしていけるように検討します。

○企業・団体との接点拡大

委員からは「学校見学会の回数を増やし、企業が生徒と直接触れ合うことで、先入観という壁を取り払いたい」との声がありました。会報誌での紹介や、松高合同の就職ガイダンス開催など、就労支援に向けた具体的な連携案が示されました。

○開かれた学校づくり

「障害があってもいろいろなことができることを知ってほしい」という願いを受け、地域の方々が気軽に声を掛けられるような、物理的・心理的「壁」のない学校を目指します。



4. コンプライアンス委員会

今年度の不祥事発生は「ゼロ」でした。運転免許証更新確認の徹底やアルコールチェックの実施に加え、外部講師を招いたアンガーマネジメント研修の検討など、より風通しの良い組織づくりを継続します。